



伊澤会長

「デザイン」の現状や今後」と題する発表を行った。

同研究会は、地球環境時代の建築・都市に太陽エネルギーを普及させていく上で、幅広い分野の専門家らが協働して技術とデザインの融合を実現しようとして、6月に設立された。

太陽エネルギーデザイン研究会(会長・伊澤岬日大教授)は9月21日、東京・丸の内の新丸ビル・エコツェリアで第1回研究会を開催した。写真。斎藤公男日大名誉教授が「建築デザインの広がり」空

間・構造そして環境へ」、山梨知彦日建設設計部門副代表が「新しいプロジェクトをめぐって」をテーマにそれぞれ特別講演したほか、会員の「建築デザインの広がり」空

上席研究員が「太陽エネルギーシステム」の七つに分類し、

太陽エネルギーデザイン研究会が初会合

テーマ別に7WG設置

それぞれにワーキンググループを設置して本格的な研究活動に入る予定だ。

第1回研究会で伊澤会長は、設立の目的や会則の一部を説明するとともに、「この地球環境の中で広く英知を出し合うことが必要で、新しい未来を展望し社会のあるべき方向へデザインと技術を持って具体的な第一歩を踏み出していきたい」とあいさつした。

同研究会は今年30日午後3時から、特別イベントとして千葉県船橋市の日大理工学部船橋キャンパスで日大習志野祭記念企画展示とセミナーの開催を予定している。